

## 牛になる

大松 達知

子供のころ、母が慣用句を使うのが嫌だった。

よく「食べてすぐ寝ると牛になるよ!」と言われた。もちろん注意の意図はわかる。だが、なにかが嫌だった。

「食後すぐに寝ころがると胃液が逆流して食道に悪いみたいよ!」くらいに理詰めで言っただけだったのだ。そもそも「寝る」は横臥なのか仰臥なのかわからない。そしてただでさえ反抗すべき対象である母親がそのときの感情で口走る「借り物言葉」が嫌だったのだ。今で言う上から目線というか(まあ、親は上なんだけど)、自分の意見でなく先人の言い回しを気軽に借りて無責任無反省に叱りつける、みたいな。と今だから分析できる。

子育て本には「おためごかし」はいけません、「私」を主語にして自分の本心を言いましょう、と書いてある。心配なんです嫌なんです、と率直に言うべきだと。とするとあのと時母は「あんたが食後にすぐ寝っ転がってテレビを見始めるのは私は見苦しいと思うし、体によくないという

説もあるのよ、あんたの体調が悪くなるのが心配なの、やめてほしいな」と丁寧に交渉すべきだったのだろう。そうでないから、息子に「入院してたおばあちゃんは牛にならなかった」と科学的に至極真つ当な揚げ足をとられてしまい、話が噛み合わなかったのだ。

そういえば、時刻切り上げ言説も嫌だった。まだ8時54分なのに、「もう9時よ!」と言うやつ。どう強弁しても8時54分は9時ではない。だから、息子が「まだ9時のニュースは始まってない」と反論するとテキはポイントをずらして「早く寝なさい」とか怒りをぶちまけるしかなくなる。明治時代の学校教育の目的の一つは時刻を意識させることだった。時刻を詐称するのが昭和の人々の了解ごとだったなら、昭和が間違っている。だって9時じゃないんだから。

短歌にも近いところはある。効果を精査しないままの古臭い言い回しとか、大雑把な言い方にツッコミを入れられてしまおうとか。言葉を大切に扱っていないのだ。そういえば同居人はオイルヒーターをストーブと呼び、デコポンを蜜柑と呼び、ピルクルをヤクルトと呼び、お風呂の栓を蓋と呼ぶ。ここに今日ある肉じゃがを「昨日の肉じゃが」と呼ぶ。私は無言の抵抗を続けている。

冷やし中華にしようかといふ母のこゑ耳の奥より取り出だしたり

山下翔 『meal』